



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4246号 2018.3.8 発行

**インフル新薬に保険適用 1回服用でOK、14日から** 西日本新聞 2018年03月07日  
 中央社会保険医療協議会（中医協、厚生労働相の諮問機関）は7日、インフルエンザの治療薬「ゾフルーザ」の保険適用を了承した。錠剤を1回飲むだけで効果が期待できるため、1日2回、5日間服用が必要な既存薬のタミフルと比べて使いやすい。インフルエンザ流行に間に合わせるため緊急的に適用し、14日から保険が使えるようになる。

薬価は1錠（20ミリグラム）約2400円。12歳以上の場合、原則として1回2錠服用する。

ゾフルーザは、塩野義製薬が開発。A型とB型のインフルエンザ患者が対象で、投与が見込まれる患者数は年331万人、販売額は年141億円と予測されている。

### 発達障害・自閉スペクトラム症の新薬治験…「幸せホルモン、鼻にスプレー」

読売新聞 2018年3月7日

対人関係を築きにくい自閉スペクトラム症について、鼻にスプレーするだけでコミュニケーション能力の改善を図る新薬の臨床試験（治験）を、浜松医科大学の山末英典教授（精神医学）らが医師主導で始めた。中心症状であるコミュニケーション不全自体にアプローチする薬は初めて。5年程度での製品化を目指す。

自閉スペクトラム症に対してはこれまで、障害に伴う不安やうつ、興奮など二次的な症状に対応する薬が用いられてきた。

山末教授らは、「幸せホルモン」と呼ばれ、女性に多いオキシトシンに注目。脳に作用し、協調性を高めるなどとする報告をふまえて研究を重ね、鼻から吸収させるスプレーを帝人ファーマと共同で開発した。

オキシトシンは陣痛促進や母乳の分泌を促す薬として世界的に使われており、開発したスプレーの安全性もすでに確認。治験は18歳以上55歳未満の男性患者約150人を募り、全国約10か所の大学病院で行う。スプレーでオキシトシンを吸入後、被験者の喜怒哀楽の表情や声色、視線の動きなどを面談形式で確認し、数値化して効果を分析する。

海外で市販されているスプレーで事前に行った、男性患者延べ60人を対象にした臨床研究では、患者の表情が豊かになり、会話がかみ合う回数が増えるなどの結果がすでに出ている。

山末教授は「オキシトシンの適切な使用頻度や量はまだ未確認で、患者や家族の自己判断で試すのは危険だ」と話している。

#### 自閉スペクトラム症の治験イメージ

オキシトシンを鼻にスプレー



無表情 喜び 驚き 恐怖 嫌悪 怒り 悲しみ

数値化

コミュニケーション能力を表情、声色、視線などから評価

理化学研究所脳科学総合研究センターの加藤忠史・副センター長（精神医学）の話「中心的な症状に効く薬はなかっただけに、期待は大きい。精神科分野では本格的な医師主導の治験がほとんどなく、その意味でも価値がある」

【自閉スペクトラム症】 発達障害の一種で、以前はアスペルガー障害、自閉性障害などと呼ばれていた。症状は様々だが、学校や職場などで人とのコミュニケーションや意思疎通がうまくできず、“生きづらさ”を抱える。患者は100人に1人の割合で、全国で100万人程度いるとみられる。

**強制不妊手術問題で議連発足 滋賀県「国の指示ない」** 京都新聞 2018年3月7日

**滋賀県文書に記録が残る  
強制不妊手術数と国の把握数**

	県 (男・女)	国
1955年	14 (8・6)	20
56年	29 (6・23)	25
57年	30 (15・15)	25
58年	27 (13・14)	17
59年	23 (12・11)	28
60年	23 (7・16)	19
61年	24 (9・15)	26
62年	24 (10・14)	48
63年	14 (6・8)	10
64年	16 (3・13)	17
65年	14 (7・7)	17
66年	8 (2・6)	8
67年	4 (0・4)	3

障害者らが旧優生保護法（1948～96年）に基づいて強制不妊手術を受けさせられた問題で、救済の在り方を検討する超党派の議員連盟が発足した。政府と都道府県が把握する統計が食い違う上に、手術の実態はよく分かっていない。国に方針を早く示すよう求める声が都道府県の担当者からも出ている。

厚生労働省に残る統計によると、滋賀県内では54～75年に282人が本人の同意なく断種させられた。55～67年の強制不妊手術件数を記録した県の文書と人数が合致するのは66年の8人だけ。62年は国の48人に対して県は24人、58年については県は国の把握より10人多い27人となっている。

当時、手術費は県が立て替え、最終的に国費が当てられた。国は県から人数の報告しか受けておらず、個人を特定できる情報がないという。一方、廃棄を免れた県の公文書で手術事実を裏付けられる人は6

8、70、71、76年度の県優生保護審査会で断種が適当とされた女性7人が最大だ。

審査会文書には審査を申請した医師や調査書を作成した保健所職員、審査委員、手術する医師、実施病院が記載されている。実態に迫る上で貴重な手掛かりで、「歴史的公文書」と位置付ける神奈川県立公文書館は対象者や保護義務者の氏名を除いて公開している。滋賀県は「個人情報の保護」を理由にいずれも黒塗りで開示に応じており、現状では行政以外の第三者が聞き取りや検証を行うのは難しい。

県健康寿命推進課は「プライバシーと深く関わるだけに根拠もなく県独自に個人や家族に連絡できない。（文書に実名が記載された）7人以外から問い合わせがあれば、どう対応すれば良いのか。国から指示や照会がなく困っている。県としては関連文書の有無を徹底的に調べる」としている。

**重症児者家族に癒やしを 仙台のNPO、10日に会員制カフェ開店**

河北新報 2018年3月7日  
オープンを直前に控えたカフェで打ち合わせをする、あいの実のスタッフ＝仙台市泉区実沢中山北

仙台市泉区のNPO法人「あいの実」は10日、重症心身障害児者（重症児者）の家族が対象の会員制カフェ「ハニーナップカフェ」を同区実沢中山北の法人事務所内にオープンさせる。介護に追われる家族の「リラックスしたい」「同じ境遇同士で情報交



換したい」といったニーズに応えるのが狙いだ。

カフェの利用は、重症児者と同居する家族が対象で会員登録が必要。事務所内のレクチャーホール（約35平方メートル）に16席を設け、セルフサービスのコーヒーや紅茶を無料で提供する。大きなガラス窓があり、木製の床に家具を配置するなどし、開放感と温かみのある空間を演出した。

あいの実は、重症児の放課後デイサービスや入浴サービスを手掛ける。家族から「来客があっても（介護で）片付けに手が回らず、自宅に迎え入れられない」「車いすで気軽に入れるカフェがない」などの悩みを聞き、家族が友達と気兼ねなく過ごすことができ、くつろげる場所を提供しようと思い立った。

カフェは3カ月に1回程度、アロマキャンドル作りやバーベキューなど余暇を楽しむイベントスペースとしても活用する。あいの実の久保潤一郎事業推進課長（44）は「施設利用者以外も気軽に来てほしい。友人を連れて思い思いの時間を過ごしてもらいたい」と話す。

開店時間は平日の午前10時～午後4時。連絡先はあいの実022（346）1730。

## 女性パラアスリートの月経対策を考える



NHK ニュース 2018年3月7日9日に開幕するピョンチャンパラリンピック。日本選手のメダルラッシュに沸いたオリンピックに続き、パラ選手の活躍にも期待したいところです。そんな華やかな表舞台のうらで、女子選手のコンディションに大きく影響する「生理」への対策が特に障害者スポーツの分野で浸透していない実態が浮き彫りになっています。選手の活躍を後押しするには、どのような支援が必要なのでしょうか。（ネットワーク報道部記者 角田舞）

### パラ選手は生理になると大変！

障害者水泳の選手としてパラリンピック出場を目指してきた矢嶋志穂さん。右半身と体幹が不自由で、ふだんは車いすで生活しています。水泳競技を続ける中で、矢嶋さんは生理に伴う悩みをずっと抱えていました。毎月、生理になると激しい痛みに加え、イライラや体のだるさが出てしまい、試合にも集中できませんでした。

### 矢嶋志穂さん

また、障害があるためトイレを済ますのに時間がかかります。試合前はこのトイレと、競技用水着への着替えだけで30分程度は必要でした。そこに生理が重なると、生理用品を交換するたびに着替えをやり直すことに。生理は競技を続ける上で大きな負担となっ

ていました。

矢嶋さんは「手が不自由な自分には生理用品の扱いが難しいうえ、手伝ってもらえるスタッフが十分いるわけでもない。試合と生理が重なると、競技中に血がもれたらどうしようなどと不安で、ストレスだった」と振り返ります。

その後、矢嶋さんは婦人科の医師に相談し、ドーピング違反にならないホルモン剤のピルを処方してもらって月経対策を始めました。何種類か試して体に合う薬が見つかったことで、大事な試合とぶつからないよう月経周期をずらせるようになりました。

加えて、生理痛やイライラなどの症状も軽減され、試合に向けて体と心のコンディションをコントロールしやすくなったといいます。

矢嶋さんは「ピルを飲んでずいぶん楽になった。パラアスリートにとって生理と試合が重なることはコンディション以外にも負担が大きいので、ほかの選手にも支援が広がればいい」と話しています。

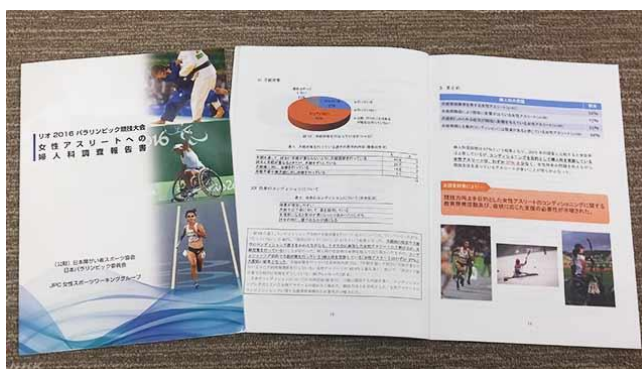
### 進まない 月経対策

しかし矢嶋さんのように婦人科のサポートを受けられるケースばかりではありません。国内で強化指定選手に選ばれている障害者スポーツの女子選手は今年度398人いますが、このうちパラリンピックに出場するほどのトップ選手でさえも「月経対策」が進んでいないことがわかったのです。

日本パラリンピック委員会がおととしのリオデジャネイロパラリンピックに出場した46人のうち44人に調査したところ、7割以上の選手が「生理痛で競技に影響が出ている」と答えました。

また「月経前の症状で競技に支障が出るか」という問いに対しては、9割が「腰痛や精神の不安定などが競技に影響する」と答えました。

その一方で、「試合と重ならないよう月経をずらす」とか、「生理痛を抑える治療を行う」などの対策をしている選手は4人に1人の割合にとどまりました。半数以上が月経対策の



サポートを受けている健常者のオリンピック選手と比べると、際立って少なくなっています。この差はどうして生まれるのか。調査を行った東京大学医学部附属病院の能瀬さやか医師に聞きました。

能瀬医師によると、障害者アスリートの場合、それぞれの障害の特性によって使えない薬があり、健常者よりも個別に治療方針を立てて対応しなければならない事情があるということです。また、

ピルの使い方を含め、どう対策すべきかという情報が選手たちにそれほど普及していないのも事実です。

能瀬医師は「対策がわからず、痛みがひどくて試合を棄権したケースもあるので、選手やコーチたちへの情報提供の機会を増やすことが必要だ。一方で、現状では障害者アスリートに対応できる医療機関ばかりではないため、全国的に受診態勢も整えていかなければならない」と話しています。

### パラアスリートの支援拡大に向けて

課題はいくつもあります。月経対策を広める取り組みは少しずつ始まっています。

日本パラリンピック委員会では去年から、障害者スポーツの大会会場に専用ブースを設けています。ここで生理痛などに悩む女子選手の相談に応じているのです。

長距離移動を負担に感じる障害者アスリートも、大会の出場に合わせれば利用しやすいという点がメリットです。今後も、陸上や水泳などの大会会場にこうしたブースが設置される予定です。

医療機関もサポートの窓口を設けています。東京大学医学部附属病院には「障がい者アスリート専用相談窓口」が設けられ、医学的な相談を受け付けています。

この病院では今後、日本パラリンピック委員会と連携し、月経対策を行う際の注意点などをまとめたガイドラインを策定する予定です。こうしたガイドラインの活用で、地方在住



のアスリートでも婦人科のサポートをしっかりと受けられるような環境整備につなげたいとしています。

さらに、医療関係者などが集まって支援の在り方を話し合う研究会も開かれています。先月（2月）開催された研究会にはパラリンピックのメダリストが出席して、実体験をもとに支援の必要性を訴えました。

辻沙絵さん

リオ大会の陸上女子400mで銅メダルを獲得した辻沙絵さんがとくに強調したのは、コーチやスタッフが男性ばかりでは生理の相談がしづらいことです。

辻さんは「ユニフォームの着替えに介助が必要だったり、自分で生理用品を装着できなかつたりする選手もいる。女性スタッフをもっと増やしてほしい」と訴えました。

研究会ではほかにも、障害者アスリートへの栄養面や精神面でのサポートの実例などが紹介されていました。

毎月襲ってくる腹部の痛みやイライラ、眠気。女性特有のバイオリズムですが、障害者アスリートの皆さんは生理にまつわる苦勞が特に多いことがわかりました。2年後の東京パラリンピックのホスト国として、今後、障害者用トイレの数を増やすなどのハード面を整えることが欠かせません。それと同時に、パラ選手たちがよりよいコンディションで大会を迎えられるよう、医療サポートをはじめとした月経対策の充実が求められていると感じました。

## 障害者の恋や性 リリーさん語る 北九州市の映画館 17日イベント

西日本新聞 2018年03月07日

俳優のリリー・フランキーさんが17日、北九州市小倉北区の映画館「小倉昭和館」で、トークイベントにゲスト出演する。同館ではリリーさん主演で、障害者の恋愛や性がテーマの「パーフェクト・レボリューション」（2017年公開）を10日から23日まで上映する予定で、監督の松本准平さんと、映画の主人公のモデルになった熊篠慶彦さんも一緒に話す。

小倉昭和館はレトロの雰囲気が漂う映画館で、封切りが終わった作品を上映する「二番館」。パーフェクト・レボリューションは、重度の障害がありながら講演や著作で障害者の性への理解を訴え続ける、熊篠さんの実話を基にした映画。リリーさんと熊篠さんは長年の友人で、リリーさんの主演が決まったという。

トークは午後5時から。参加費は映画観賞とドリンク1杯（ビール、ワインなど）のセ

ットで2000円。トークの前に、パーフェクト・レボリューション（午前10時、午後2時40分）や、三島由紀夫の小説をリリーさん主演で映画化した17年公開の「美しい星」（午後0時15分）の上映を楽しめる。昭和館＝093（551）4938。

## 朝の清掃 始めて2年余 住民と交流も 松阪の障害者支援施設 /三重

毎日新聞 2018年3月7日

障害者の就職をサポートする松阪市日野町の就労移行支援事業所「ジョブステーション マツサカ」が毎朝、周辺商店街のベルタウン一帯の清掃活動を続けている。始めて既に2年余り。「商店街が綺麗になるうえ、社会との触れ合いは利用者の社会復帰や体力作りにも役立つ。一石数鳥の効果がある」と三村作典社長（60）も先頭に立ってごみを拾う。

事業所は三村社長が2015年11月に開設した

## 精神障害者も対象 4月から障害者雇用義務に追加 大阪日日新聞 2018年3月7日



4月1日から障害者雇用義務の対象に精神障害者が加わり、法定雇用率は民間企業で2.0%から2.2%に引き上げられるため、関係機関が周知に努めている。外見上から特性を判別しにくい精神障害者を巡り、基礎知識の研修受講や就労支援施設の職場実習の受け入れから始める手法を紹介。採用を進めている企業からは、個々の長所短所に合わせた対応の重要性が示されている。

80社余りが参加して開かれた障害者向けの就職面接

会＝大阪市中央区

### ■まずは受け入れ

これまでは、障害者雇用義務の対象は「身体」と「知的」だったが、「精神」の就職件数が右肩上がりの中で新たに対象となった。

精神障害者が仕事に慣れる期間なども考慮。短時間労働の場合、本来の雇用率算定方法では対象者1人につき0.5人分だが、雇い入れから3年以内といった条件を満たせば、1人分に数えられるようにしている。

府内企業の障害者雇用は、14年連続で過去最多の人数を更新しているものの、2017年6月1日現在の実雇用率は1.92%と法定の2.0%には届いていない。雇用率を達成している企業の割合も45.5%にとどまり、半数以上が未達成だ。

そこで今回の変更を前に関係機関が周知を強化。2月には、大阪労働局と大阪府が、関西経済連合会に協力を要請した。

また、府は精神、発達障害者の雇用事例発表会を実施。大阪労働局は、両障害者を職場で支える担当者「しごとサポーター」の養成講座を展開しているほか、障害者就職面接会を開き、初めて参加する企業もあった。

大阪労働局は、精神障害者の雇用についてハードルが高いと感じる場合には、「まずは障害者就労支援機関の職場実習の受け入れから始めてもらえれば」（職業対策課）と呼び掛け、各機関の紹介などはハローワークで受け付けている。

### ■戦力になる

すでに精神障害者の雇用に取り組んでいる事業所は、試行錯誤を続けている。

昨年4月から精神障害者の雇用を始めた大阪市北区の外食企業は、職場定着が課題。人事担当者（38）は「当初は障害が仕事にどう影響を及ぼすのか分からなかった」と振り返る。

実際に体験しながら工夫。業務に集中して休憩の取り方がうまくできない人には、ずっと座っているのを見たら声掛けをするといった具合だ。「それぞれができる業務を割り当てながら、よりよい対応方法を蓄積している」と話す。

一方、現在100人以上の障害者を雇用し、精神障害者が3割超というダイキングループの特例子会社「ダイキンサンライズ摂津」(摂津市)。渋谷栄作社長は「障害があっても戦力になる方はたくさんいる」と力を込める。

弱点と長所を見極め、より働きやすいように環境を整える重要性を強調。「まずは職場のリーダーが、部下の日々の変化をよく見ること」と助言している。

### 「手話カフェ」福岡にオープン 接客は手話や筆談で 宮田富士男

朝日新聞 2018年3月7日

メニューを指さして注文したり確認したりする＝福岡市博多区



耳が不自由なろう者を含むスタッフが手話や筆談で接客する



「手話カフェ nico」が2月に福岡市博多区千代2丁目で開業した。細かいコミュニケーションが不要な仕事に限られがちなろう者の働く場を広げ、一般の人が手話に触れてろう者を知るきっかけにしたいと企画した。

Nicoは市営地下鉄千代県庁口1番出口の近くにある。1階と2階にカウンターやテーブル席が計33席。店内では、まずカウンターでメニューを指さして注文し、料金を支払う。用があるときは手を挙げてスタッフを呼び、手話か筆談で伝える。

運営するのは、市内で障害者が働く食堂を営む一般社団法人ノーマライゼーション。代表理事の松本昌彦さん(60)は以前、食堂で働いたろう者を見て、能力の高さを知った。しかし、「ろう者はコミュニケーションに難がある」と見なされがちで単純作業の求人が多い。「ろう者が能力を発揮できる場を」「ろう者を知ってもらえる場を」という思いから手話カフェを思いついた。

スタッフはろう者6人、健聴者6人の計12人で、全員が手話を使える。

### 発達障害児ら休館日に招待 藤枝「そらいろ図書館」 静岡新聞 2018年3月7日

読み聞かせなども行われた「そらいろ図書館」＝藤枝市立駅南図書館



藤枝市立駅南図書館は、発達に課題などがあり、日頃図書館を訪れる機会が少ない子供たちを休館日に招待する「そらいろ図書館」を2017年度から始めた。「周りに迷惑を掛けることが心配で行きにくいという声を聞いた」と駅南図書館の担当者。一般の利用者がいない休館日に、周囲を気にすることなく本と触れ合う機会を提供しようと企画した。

2月下旬には17年度5回目のそらいろ図書館を開いた。特別支援学校や特別支援学級に通う児童・生徒を対象にした放課後等デイサービス「社協ルピナス」の小中学生と高校生、職員ら約20人が訪れた。

駅南図書館の職員から「何でも自由に本を読んで」と声を掛けられると、子供たちは館内を見て回り、気に入った本を椅子に座って読むなど思い思いに時間を過ごした。

図書館職員による絵本の読み聞かせや手遊びなどもあり、子供たちは職員と一緒に手をたたくなどして楽しんだ。

そらいる図書館の開催は、駅南図書館が市内の関連施設に声を掛けて、希望があれば休館日の中で調整している。18年度も継続していく方針で、担当者は「みんなに本を読んでもほしい。図書館の雰囲気に慣れてもらって、将来的には開館日にも来てもらえれば」と話している。

## 「お守り入れて使って」 離職を届け出た介護福祉士にプレゼント

福祉新聞 2018年03月07日 編集部

昨年4月にスタートした「離職介護福祉士等届出制度」をPRするために、全国社会福祉協議会・中央福祉人材センターが作成した「介護のお守り袋」が、介護中の事故防止を願う介護福祉士らから人気を呼んでいる。



社会福祉法改正に伴い創設された同制度は、介護福祉士が離職する時に都道府県福祉人材センターに氏名・登録番号・連絡先などを届け出ることを努力義務化したもの。インターネットで届け出できる。

また努力義務ではないが、介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、旧ホームヘルパー養成研修1・2級課程、旧介護職員基礎研修の修了者も登録でき、1月末現在で7829人が届け出ている。

お守り袋は、緑の布地に桜と菊をデザインし、「介護」の文字を刺しゅう。中身は入っておらず、各自で用意したお守りを入れて使う。例えば「交通安全のお守りを入れれば、デイサービスの送迎安全につながる」などの声もあり、評判は上々だという。

中央福祉人材センターは「届け出は就業中でもできる。登録すると復職支援のための求人紹介や技術研修のサポートが受けられる。登録した人には、もれなくお守り袋をプレゼントするので、ぜひ都道府県福祉人材センターへ連絡してほしい」と話している。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行